

シンポジウム

奄美群島の生物多様性2

琉球弧の生物多様性の成り立ち

奄美群島を含む琉球弧の生物多様性は、国際的に見ても特異な存在です。当該地域の生物多様性は、大陸との分離や結合による地史、地球規模の環境変化、黒潮の流れなどを反映して成立していると考えられています。

本シンポジウムでは、各分野で研究をされている専門家にお集まり頂き、琉球弧の生物多様性の成り立ちの謎に迫ります。多くの皆さまの参加をお待ちしています。

入場無料
(申込不要)

日時：平成24年12月9日(日) 14:00~17:00
場所：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟1号館131講義室
主催：鹿児島大学（鹿児島環境学研究会・奄美プロジェクト）

プログラム

- 趣旨説明：岡野隆宏（鹿児島大学教育センター）
- 基調講演
 - 琉球弧の陸生動物相が描く系統地理パターンと固有性
- おもに両生類、爬虫類を例として -
太田英利（兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授）
 - 琉球弧の維管束植物相の成立
横田昌嗣（琉球大学理学部教授）
- 話題提供
 - ハブとカンアオイから見る奄美大島の成立
服部正策（東大医科学研究所奄美病害動物研究施設准教授）
 - 九州から沖縄の大型脊椎動物化石（中生代から現在まで）
仲谷英夫（鹿児島大学大学院理工学研究科教授）



4. 総合討論

問い合わせ先：
鹿児島大学教育センター
岡野隆宏(099-285-3703)

会場案内図



※公共交通機関をご利用ください。